

「学びの循環」の実現に向けて ～社会教育活動を行う場や機会の活用～

埼玉県社会教育委員会議

【経緯】

- ・前回建議「学びの循環のある地域社会を目指して」の具現化
- ・活動の中心である社会教育施設に焦点を当て、施設の機能や役割を再認識
- ・県内の実践事例を紹介し、「学びの循環」を具体的にイメージ

※「学びの循環」とは

「学び」を通じて自らを高め、「学び」の成果を社会に還元するなど、新たな社会的役割を創出すること、そして、個々の「学び」が連鎖して、社会全体における持続的な教育力の向上に貢献すること

■第1章 埼玉県における社会教育の現状等

(平成26年度埼玉県社会教育統計調査等から)

- ・社会教育に携わる職員数や社会教育施設数は横ばい
- ・講座等の実施件数や受講者数は、いずれも増加傾向
- ・社会教育施設の講座等が増えてほしい人が多い
- ・情報の入手は口コミやインターネット、新聞、自治会の回覧

県や市町村に力を入れてほしいことは

- ・社会教育施設のサービスを充実する
- ・学びに関する情報を得やすくする
- ・学びを支援する人材の育成

地域の課題を的確に捉え、地域の人材や団体と連携し、それぞれの「学び」が循環した多彩な事業を展開していくことが必要

■第2章 「学びの循環」の場や機会の創出

～社会教育施設における「学びの循環」～

<社会教育施設の構成要素>

- ・人材＝住民、ボランティア、コーディネーター・職員等
 - ・施設＝住民が集う場、仮想空間等
 - ・学習支援機能＝地域課題を解決する学びの支援等
 - ・学習プログラム＝ICTの活用、
大学・企業・NPO等との連携
- 学びの循環を実現するための中核として
学習情報の提供や各種団体のコーディネート
- 各種団体との連携のポイント
パートナーシップの構築、共通目標の設定等
- ICTによる新たな学びの「場」「機会」の提供
ネット空間に学びを提供、多忙な人への呼び掛け

■第3章 社会教育施設を活用した

「学びの循環」～事例で見る学びの循環～

- 学びの「質」を高める取組
 - ・施設利用者の交流の輪を広げる
 - ・情報の一元化や資料のインターネット発信を通じて、より良い学びを支援
- 社会教育活動における多様な「学びの循環」
 - ・アウトリーチ型事業の展開
 - ・NPOや自治会等との連携による地域課題の解決
(例：NPO子育てネット行田、春日部市武里地区公民館)
- 地域の人材等を活用した学びの提供
 - ・社会教育施設の事業に住民が参画
(例：三芳町立図書館、県立小川げんきプラザ)



▲防災対策事業
(春日部市武里地区公民館)

■第4章 「学びの循環」を通じた、これからの社会教育施設～社会教育施設に期待すること～

- 地域の力を結集した取組 → 高齢者、他分野、社会教育関係団体等の力を活用した取組
- 社会教育施設に求められる取組 → 住民の参画を促す取組、気軽に集う工夫、施設の特徴を生かした取組、専門職員等の拡充
- 地域における社会教育活動の拠点 → 入門講座から質の高い講座まで総合的な学びの編成、新たな学習プログラムの開発等